



原 忠 (高知大学准教授) 佐藤 毅 (女川町健康福祉課参事)

るものがあ
り、自然の
恐ろしさを
痛感しまし
た。海から
2 kmほどの
人は、「まず
ここまでは
来ないだろ
う」と思っ
て逃げな
かったこと

で人的被害が多くなったのでは
ないかと思っています。やはり人
が住むところは、高台、防災セン
ターや避難所、食料備蓄につい
てもかなり高台に造らなければ
意味がありません。食料関係と
毛布を役場の裏の倉庫に保管し
ていましたが、すべて流されてし
まいました。それと、住民をいち
早く避難させる方策も必要だと
強く感じました。

なぜ、多くの高齢者の方が犠牲になられたと思いますか。

佐藤 あくまでも推測ですが、女川町の高齢者の方々は昭和35年のチリ地震津波と昭和53年の宮城県沖地震を経験しています。その経験から自分で大丈夫だと判断して避難しなかった方や避難が遅れたという方がいます。

また、避難したのにもかかわらず、様子を見に帰ったとか、忘れ物があります。そして、親や配偶者を見捨てて、自分だけ避難するとうわけにもいかなかったという事で結果的に被災された方も相当数いたと思われるます。

南海地震の規模と被害状況を教えてください。

原 震源が我々の陸地の真下にありますから、揺れは間違いなく強く、100秒以上の揺れに立っていられるかということになります。そして、津波は来襲するまでの時間が最短で10分以内と言われています。10分というのは揺れだしてからの時間ですから、相当危機感がないといけません。地震発生の時間によっても被害状況が変わってきますし、火災被害についても考えておかなければいけません。

予測される被害については、野市町は非常に古い家があるということ。あとは昔、住宅がなかったところを開発して住宅化したような所は、もともと田んぼを埋め立てた所が多く、地盤災害を受けやすいことです。香我美町のような山間部は、いろいろな被害が想定されます。軽微な

保健医療の面で大切なことはなんですか。

の出勤になります。まずは人命救助、時期が過ぎるにしたらがって行方不明者の捜索を行います。その一方で、避難所への救済物資の輸送があります。我々は香南市におりますが、たぶん高知県内全域が非常に悲惨な状態になっていると思います。で、県外から来る救援部隊の増援をも含めた災害派遣活動をするということになります。

佐藤

女川町では、震災翌日に総合体育館へ避難所を設置しました。当時、総合体育館には2,500人ほどの方が避難していましたが、人間だけではなく、ペットの犬やネコも一緒に、土足の状態での寝泊まりを余儀なくされていきました。もちろん、水は出ません。劣悪な環境、不安と疲労の蓄積で押しつぶされそうになっていた中、県外や自衛隊の医療チームの方々の支援で、目の前の患者の診療だけではなく医療システムのコーディネート支援、感染症の対策案の提示、保険診療の開始に向けての診療体制や巡回医療のあり方も検討してもらいました。それとは別に3月14日、テイスラーサービスの利用者と認知症の人たちの受け入れ先と

して、老健施設に福祉避難所を開設しました。一般の避難所と福祉避難所、救護者等の緊急避難所は被災を受けない地域に事前に指定しておくことが大切になってくると思います。もう一つ重要なことは、震災後の被災者の心のケアです。新潟県の方からの情報ですが、中越地震から7年間経った今でも、うつ病の治療者の増加、認知症状の早期顕在化の現象が見られるということです。いまだに震災関連の自殺者もいるということでした。それだけ心のケアは長い時間が掛かってしまいます。

南海地震対策で大切なことはなんですか。

原

私の中で2つは間違いなくやらないといけないと思っいることがあります。1つは教育です。知恵がないと絶対に命は助かりません。これは釜石の奇跡という話があるように、日頃から有事が来たときにはどこへ逃げ、どのようなものを貯えておいたらいいのかなどを徹底する教育をすることです。もう一つは、体力です。マラソンが速くなってくださいという意味ではなく、すぐに行動に移せるという体力です。日頃の訓練と体の動きが一致すると必然的に人間は移動できま



香南市南海地震フォーラム 今できることを考える

ものですと落石。それと斜面で非常に困るのは、道路が閉塞し使えなくなること。その上、迂回路もないとなると非常に恐ろしいこととなります。そして、香南市は非常に高い津波が予想されています。赤岡町と吉川町は非常に湾口が広く、夜須町は、標高の差があるため、津波が高く登ってきます。一度遡上した津波は川を伝ってそのまま来るため、さらに広域にわたり、場合によっては山の際まで津波が来ることも想定されます。

香南市の地震・津波対策を教えてください。

仙頭

ハード事業は公共施設の耐震化、避難高台の整備、学校や公民館の外付け階段の整備、防

南海地震発生時、自衛隊はどのような活動を行いますか。

石田

どこで被害が出ているのか、どういうところで被災者が出ているのかという情報収集、そして、そこに部隊が行けるのかというのを把握します。それから

ティアセンターの設置訓練を行うなど、態勢作りを行ってまいります。今後も、社会福祉協議会と連携を取りながら、実際の時にいち早く受け入れ態勢ができるようにしていきたいと考えています。

要支援者をサポートすること、健康者が亡くなった事例がある。どうすればよいのか。

原

命の問題ですから非常に難しいことですが、端的に言いますと、津波の到達まで時間がありませんで、津波浸水予想区域にお住まいの方は、とにかく早くも全速力で避難していただくか、最初から住居を高台へ移動していただくかになります。これは個人の意見が入りますので、どれが答えというのはありません。防災の基本から言いますと、自分の命は自分で守ることが原則です。それは、健康者であっても要援護者であっても同じです。

家の中にいると放送が聞こえない。的確に伝達できる仕組みはないか。

原

高知の例で言うと、放送は間に合わないと思います。その時に、防災無線が使えるという保障もありませんので、長時間の揺れを感じたら逃げることを徹底するしかないと思います。

会場からの質問

災害発生時に、態勢ができていないからとボランティアを断らないでほしい。

仙頭

社会福祉協議会を中心に被災地のニーズと支援ボランティアの調整を行う災害ボラン